

第1学年の結果と考察

調査人員 61,340人

① つぎの けいさんを しましょう。

(1) $3+6=$ (3) $9-4=$
 (2) $9+5=$ (4) $13-8=$

② 男の子が 6人、女の子が 9人 います。女の子は、男の子より 何人 多いですか。しきを かきましょう。

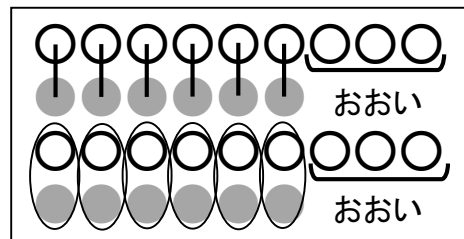
しき または、

③ の 単に あてはまる かずを かきましょう。

問題		評価基準及び割合 (%) A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C1 <input type="checkbox"/>					
		C2 <input type="checkbox"/> C3 <input type="checkbox"/>				0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
1	(1)	A	C			平成22年度	<input type="text" value="98"/> <input type="text" value="2"/>
		正答	誤答・無答			平成24年度	<input type="text" value="98"/> <input type="text" value="2"/>
	(2)	A	C			平成22年度	<input type="text" value="98"/> <input type="text" value="2"/>
		正答	誤答・無答			平成24年度	<input type="text" value="97"/> <input type="text" value="3"/>
	(3)	A	C			平成22年度	<input type="text" value="96"/> <input type="text" value="4"/>
		正答	誤答・無答			平成24年度	<input type="text" value="96"/> <input type="text" value="4"/>
	(4)	A	C			平成22年度	<input type="text" value="95"/> <input type="text" value="5"/>
		正答	誤答・無答			平成24年度	<input type="text" value="95"/> <input type="text" value="5"/>
2	A	C1	C2	C3	平成22年度	<input type="text" value="75"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="16"/> <input type="text" value="3"/>	
	正答	6-9	たし算の式	左記以外の誤答・無答	平成24年度	<input type="text" value="76"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="15"/> <input type="text" value="3"/>	
					平成26年度	<input type="text" value="73"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="18"/> <input type="text" value="3"/>	
3	A	B	C		平成22年度	<input type="text" value="87"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="8"/>	
	完答	42と52のみ正答	左記以外の誤答・無答		平成24年度	<input type="text" value="87"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="8"/>	
					平成26年度	<input type="text" value="86"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="9"/>	

① [1位数+1位数=1・2位数] や [1・2位数-1位数=1位数] の計算ができるかをみる問題である。繰り返し・繰り返り下がるの有無にかかわらず、高い正答率である。具体物を用いて「計算の意味を理解し、計算の仕方を考え、習熟する」という一連の活動を重視していきたい。

② 減法の立式が正しくできるかをみる問題である。誤答のうち、加法の式とした児童が増加しており問題を読んで正しく演算決定ができていないことが分かる。「女の子は男の子より何人多いか」ということから、この問題が求差の場面であることをしっかり理解させたい。ただし、求差の場면을図に表すと6と9のどちらの数も見ることになるので、両方たしてしまうことも考えられる。「なんん人 おおい」という表現も、加法を連想させたと考えられる。指導の際には、問題を図に表し、どの部分を求めているのかを図と対応させていくことが重要である。



③ 数の規則性に着目して、正しく数系列を構成することができるかをみる問題である。3つの□のうち、右の2つは正答で、左端だけあてはまる数を書けなかった誤答は5%と変わらなかった。数系列の指導では、左から右に数の変わり方を見ていくと「10ずつ増えている」や「一の位の数は変わっていないが、十の位の数が1ずつ増えている」などのきまりに気付くことができるようにしていきたい。また、左から右に見るだけでなく、右から左に数を見る見方も養いたい。その際、数と数の間がいくつ違うか書き込むことや、「2跳びの数」「5跳びの数」等の指導の際にも逆に跳ぶ(累減する)方向への数の見方を指導することも有効である。

4 ひきざんカードを じゅんじょよく ならべています。あいている ところ には、どんな カードが はいりますか。 あてはまる カードを かきましよう。

5	12-5	13-5	14-5	15-
6	12-6	13-6	14-6	15-
7	12-7	?	14-7	15-
8	12-8	13-8	14-8	15-
9	12-9	13-9	14-9	15-

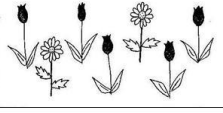
13-7

5 □ の中にかずをいれて、こたえが 9 になるように しましよう。

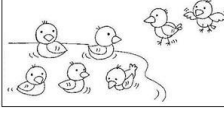
(1) $\begin{matrix} 10 \\ 11 \\ 12 \\ 13 \\ 19 \\ \text{など} \end{matrix} - \begin{matrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \\ 10 \\ \text{など} \end{matrix} = 9$ (2) $\begin{matrix} 11 \\ 12 \\ 13 \\ 19 \\ 10 \\ \text{など} \end{matrix} - \begin{matrix} 2 \\ 3 \\ 4 \\ 10 \\ 1 \\ \text{など} \end{matrix} = 9$

6 5+2のしきに なるのは どれですか。 ばんごうを 1つ えらんで かきましよう。


① 紫い はなが 5本あります。 白い はなが 2本あります。 ちがいは なん本ですか。



② とりが 5わいます。 2わふえました。 ぜんぶで なんわに なりましたか。



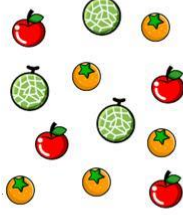
③ じどうしゃ が 5だいならんでいます。 けんじしん は まえから 2ばんめ の じどうしゃ に のっています。 けんじしん が のっている じどうしゃ の うしろには なんだい ならんでいますか。



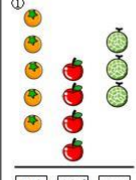
↑けんじしん

2

7 くだもの かずを くらべます。 くらべやすいように、せいりして ならべているのは、 どれですか。 ばんごうを 1つ えらんで かきましよう。

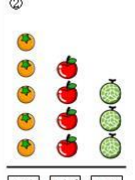


①



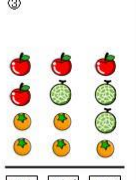
りんご りんご りんご

②



りんご りんご りんご

③



りんご りんご りんご

2

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ B ■ C1 □					0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%													
	A	C1	C2	C3		C2	C3												
4	正答	被減数が 13の式	減数が 7の式	左記以外の 誤答・無答	平成22年度	91	21	6											
					平成24年度	91	21	6											
					平成26年度	90	21	7											
5	完答	1問正答	左記以外の 誤答・無答	平成22年度	88	7	5												
				平成24年度	88	7	5												
				平成26年度	87	8	5												
6	正答	①	③	左記以外の 誤答・無答	平成22年度	79	5	11	6										
					平成24年度	81	4	11	11										
					※平成26年度	79	4	12	11										
7	正答	①	③	左記以外の 誤答・無答	平成22年度	84	3	13	11										
					平成24年度	85	3	7	5										
					平成26年度	85	3	7	5										

【年度の横の記号は、☆：上学年から下りてきた問題、※：問題の一部を変更して実施した問題】

- 4 カードの並び方の規則性に着目して、正しい式を考えることができるかをみる問題である。計算カードを使った活動では、計算の習熟を図るだけでなく、規則性に着目するなどの算数的活動を通して指導の工夫を充実していきたい。指導に当たっては、被減数(減数)が同じカードを集め、それらを順序よく並べることを通して、減数(被減数)と答えの変わり方にどんきまりがあるか見付ける算数的活動、同じ答えになるカードを探し、それらを順序よく並べることを通して、被減数と減数の変わり方にきまりがあることを見付けさせたり、不足しているカードはないかを考えさせたりする算数的活動等が考えられる。これらの活動を通して関数の見方・考え方の素地を養っていききたい。
- 5 答えが9になる減法をつくることができるかをみる問題である。1の(4)の繰り返し下がりのある減法の正答率が94%であることから、計算技能は習得できている。今後も数の合成・分解をする活動を通して、一つの数を他の数の和や差でみる経験をさせ、数を多面的にみる力を伸ばしていきたい。例えば、答えが9となる減法の式を計算カードから選び、それらを順序よく並べていくことで、被減数と減数が同じ数ずつ増えても減っても答えは同じになることに気付かせるなど、ひき算カードを用いた指導での発見と関連付けながら関数の考えの素地となる指導も積極的に取り入れていきたい。
- 6 式を読み、具体的な問題場面と結び付けることができるかをみる問題である。①を選んだ児童は、絵だけをたよりにして間違っ て立式しているか、問題文から適切に問題場面を捉えられていないことが考えられる。③を選んだ児童は、問題文の数値だけをたよりに立式していることが考えられる。それ以外の誤答・無答の児童が増えたことから、式から問題作りをしたり、式を図や絵で表したりして、低学年から場面と式を関連付ける活動を積極的に取り入れ、式を読むことの素地を養うことが大切である。
- 7 ものの個数を比べるときに、整理して表すことができるかをみる問題である。きれいに並べると比べやすくなることは分かっているものの、種類ごとに分けなければ一目で数を比べることができないことに気付いていないと考えられる。いくつか混ざっているものの個数を比べるときには、同じ種類に分類し、それを端をそろえて並べ整理して表すことで、一目で簡単に比べることができる。実際に活動を行い、経験を通して身に付けられるようにすることが重要である。例えば、色付きのおはじきを色ごとに分類し、端をそろえてきれいに並べ、「どれが一番多いか」「どれが一番少ないか」や「赤と青ではどちらがどれだけ多いか」など考えさせる活動を取り入れ、分類整理の基礎的な力を付けていきたい。